

2-4 地域特性の把握

(1) 地域の構成と特性

① 地域構成の概況

本市の地域や地区は、大字（75 字）～地区公民館地域（概ね旧村の区域、16 地域）～旧4町～国東市の4段階の構成となっています。



■ 地域、大字の構成と概況

旧4町	地区公民館地域				
	名称	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	構成大字
国見町	計	7,260	4,344	59.8	
	竹田津	1,737	992	57.1	西方寺、竹田津、鬼籠、櫛海
	伊美	3,278	2,105	64.2	赤根、千灯、野田、中、伊美、櫛来
	熊毛	2,245	1,247	55.5	岐部、小熊毛、大熊毛、向田
国東町	計	11,257	10,673	94.8	
	来浦	1,657	869	52.4	岩戸寺、来浦、浜
	富来	2,549	2,331	91.4	深江、東堅来、富来浦、浜崎、富来、大恩寺
	上国崎	1,654	452	27.3	成仏、下成仏、見地、中田
	豊崎	2,042	599	29.3	岩屋、赤松、横手
	国東	2,431	5,431	223.4	田深、北江、川原、原、安国寺、鶴川、小原
	旭日	924	991	107.3	治郎丸、綱井、重藤
武蔵町	計	4,183	5,068	121.2	
	武蔵東	1,792	4,056	226.3	池ノ内、内田、古市、成吉、志和利、三井寺、糸原、小城、武蔵向陽台
	武蔵西	2,391	1,012	42.3	丸小野、狭間、麻田、手野、吉広
安岐町	計	9,107	8,562	94.0	
	西武蔵	1,823	529	29.0	両子、富清、糸永
	朝来	2,323	574	24.7	明治、朝来、矢川
	西安岐	2,724	2,286	83.9	山浦、樹樋、油留木、吉松、瀬戸田、成久、中園
	安岐	761	4,010	526.9	馬場、下原、塩屋、安岐向陽台
国東市 計		31,807	28,647	90.1	

資料：面積は都市計画基礎調査、人口は平成27年国勢調査

②地形と密接に結びついた地域構成

本市の市域は、扇型の形状からなり、その要（かなめ）部分に半島最高峰の両子山が位置し、そこから放射状に尾根筋が海岸線に向かって伸び、また、尾根筋に挟まれた谷筋と河川が同様に放射状に海岸線に達する地形が特徴となっています。

地区公民館地域は、この尾根筋を主な境界として、谷筋に沿った河川両側の平野部分に広がる宅地、集落や農地からなるひとまとまりの地域として形成されてきたことが分かります。

このことは、統廃合前の小学校が各地区公民館地域にそれぞれ1校ないし2校が配置されていたことからみても、本市の地域構成や生活圏が地形と密接に結びついていたということがうかがえます。

③土地利用から見た特性

国見町では、尾根筋が海岸線近くまで伸びているためまとまった平地が形成されず、このため竹田津、伊美、熊毛等の小規模な市街地が分散する傾向が見られます。

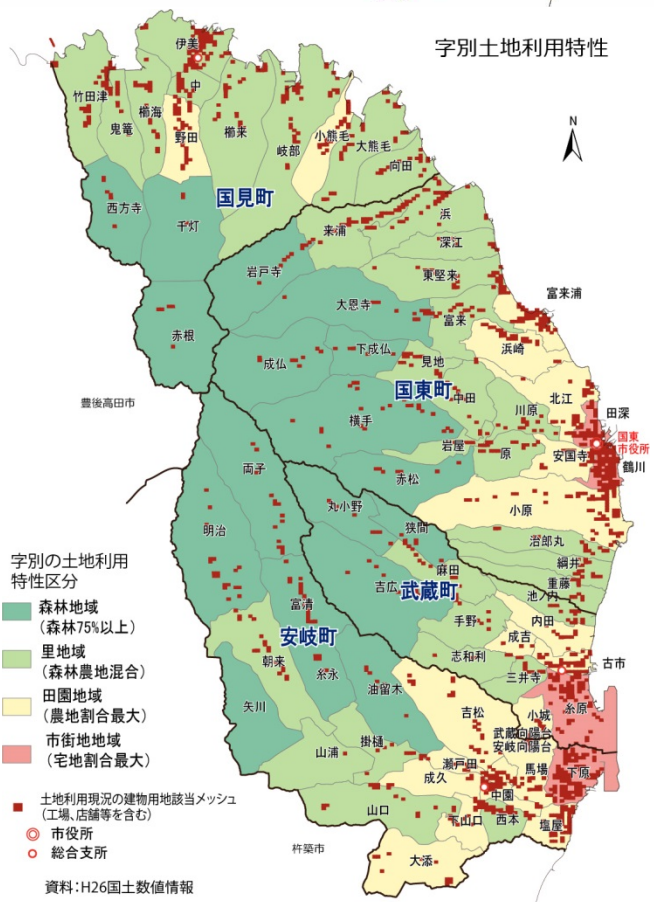
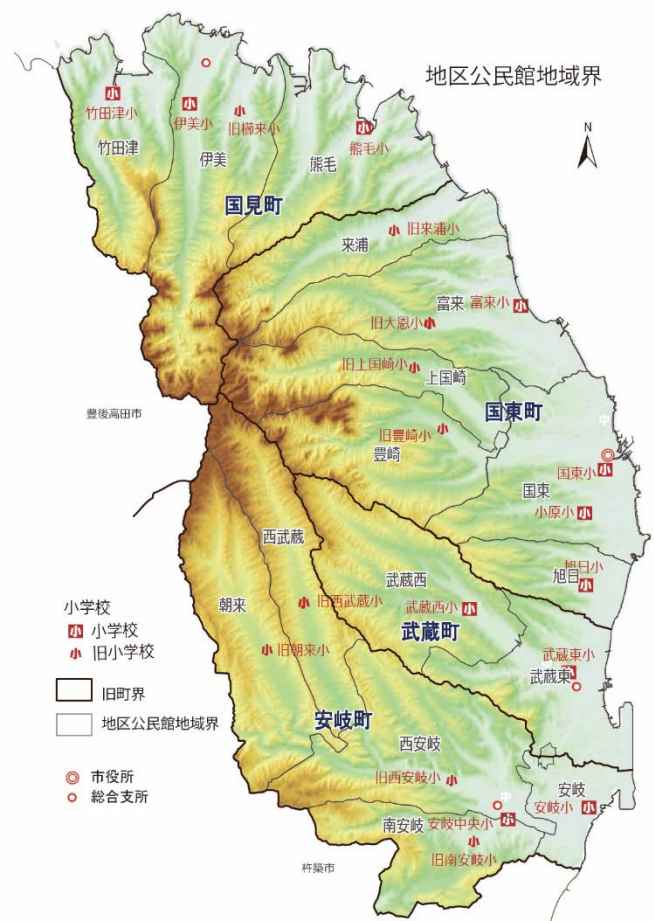
国東町では、海岸線に沿ってまとまった平地が形成され、鶴川、田深、安国寺、富来浦等の市街地が形成されています。

武蔵町では、沿岸部に古市、糸原等の市街地が形成されています。

安岐町では、沿岸部の下原、塩屋の市街地に加え、やや内陸部の中園等にも市街地が形成されています。

田園地域、里地域では、河川に沿って帯状に集落が形成されるパターンが多く、面的に広がる規模の集落は少ない傾向にあります。

森林地域では、さらにこの傾向が強く、河川に沿った谷筋に帯状に集落が点在する傾向となっています。



※大字別に土地利用構成(山林、農地、宅地等の三区分)に基づき、図のように森林地域、里地域、田園地域、市街地地域に区分し、さらに100メッシュの建物該当メッシュを重ねて表示

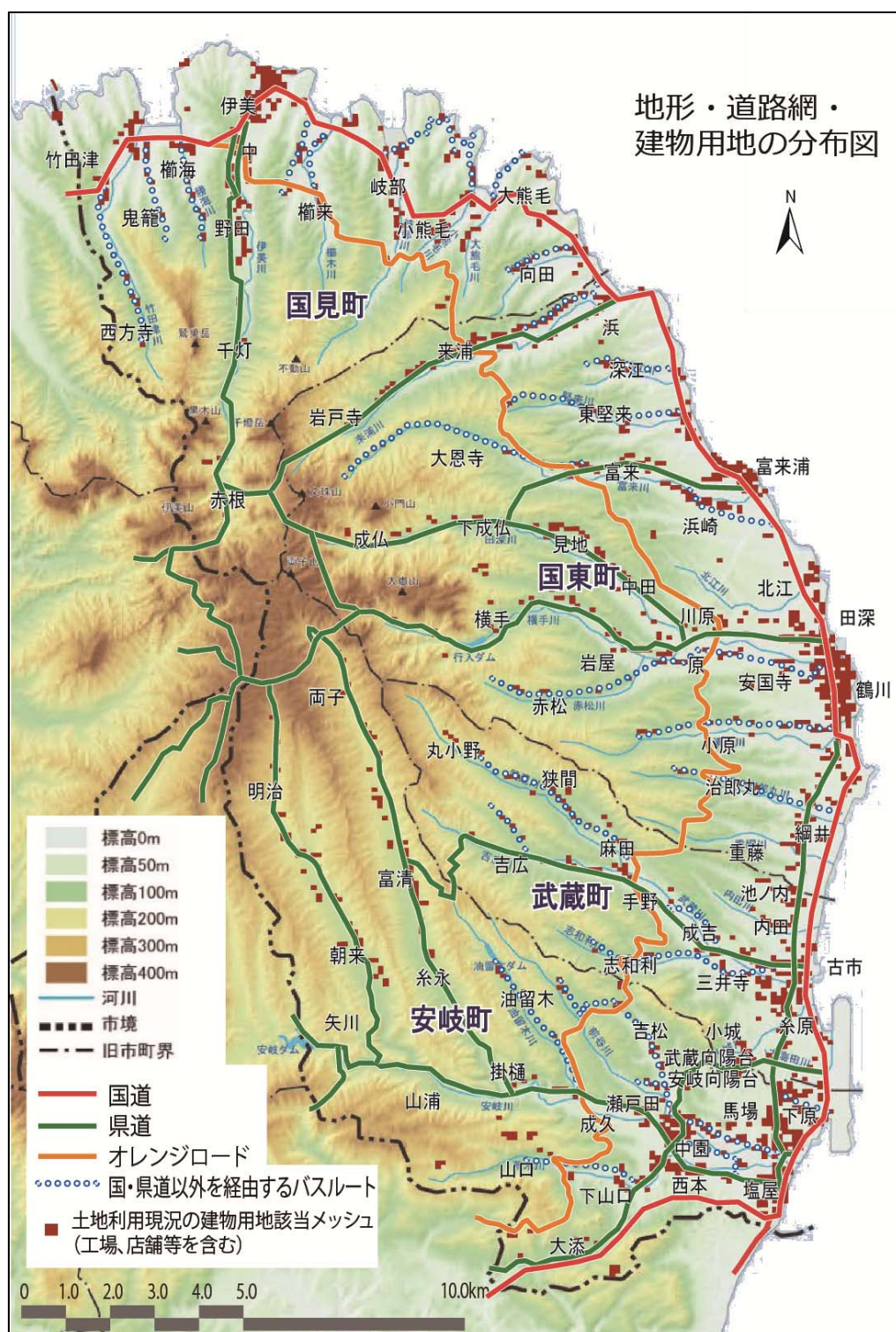
④道路・交通の特性

道路は、海岸線に沿って半円形状に本市の幹線道路である国道 213 号が経由しています。

本市の扇状の要部分に位置する両子山等山地部に向かって、国道から主に谷筋に沿って県道が整備されています。このほか、市道オレンジロードが、国道から約 4km 内陸側に整備されており、尾根筋を貫く環状道路となっています。

国・県道が経由していない地域にも、路線バス、コミュニティバス、コミュニティタクシーが運行されていますが、これらのルートの多くは、谷筋や河川に沿ったルート設定となっており、尾根筋を跨ぐルート設定が阻まれています。

このように道路・交通についても地形条件に大きく制約されているといえます。



①沿岸部への人口集積と、田園、森林地域での分散的な集落形成

内陸部は、地形で見た平野部の規模により人口規模が異なり、特に森林が優勢の字では 200 人未満の字が多くなっています。



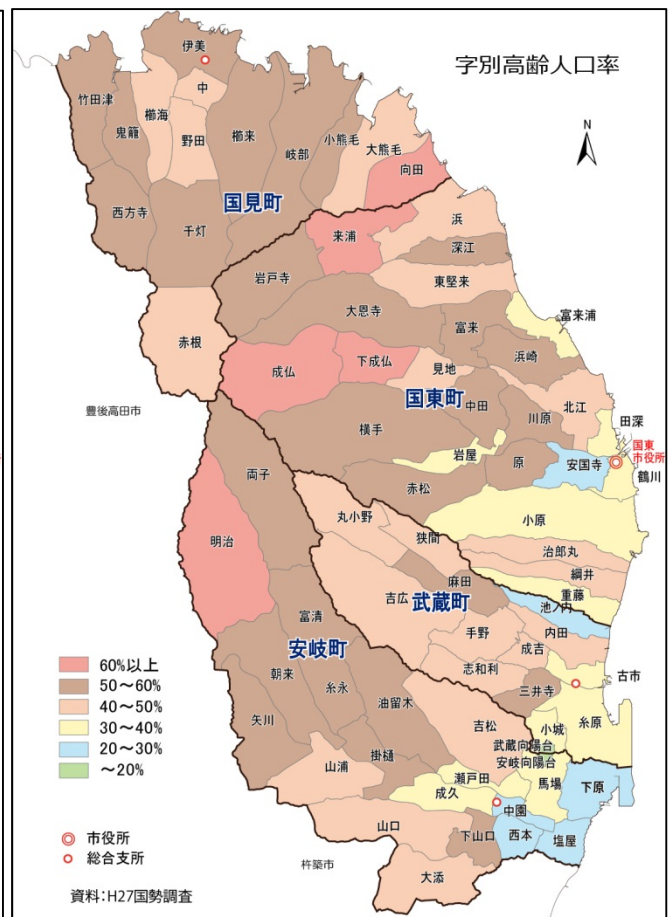
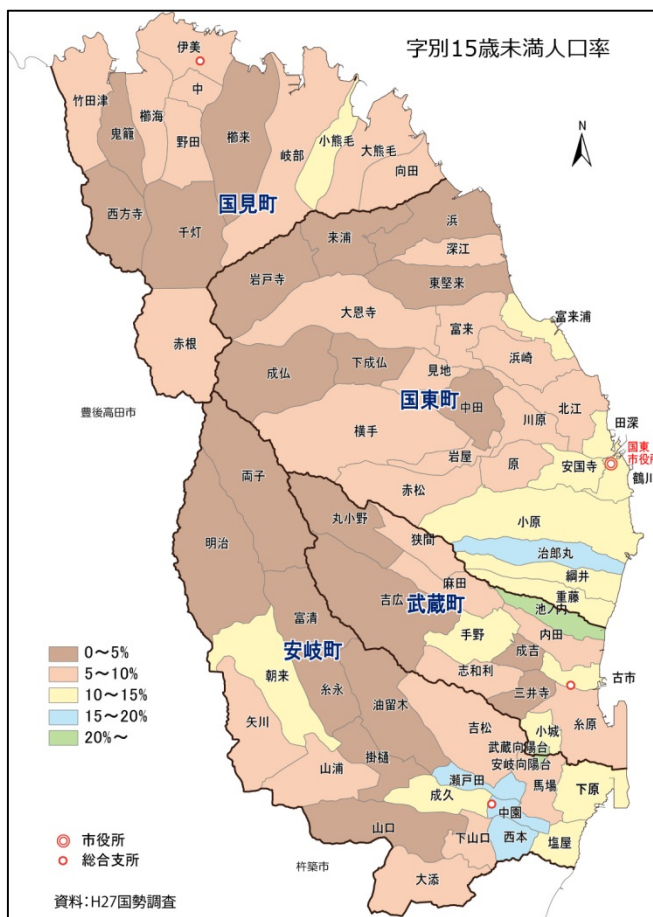
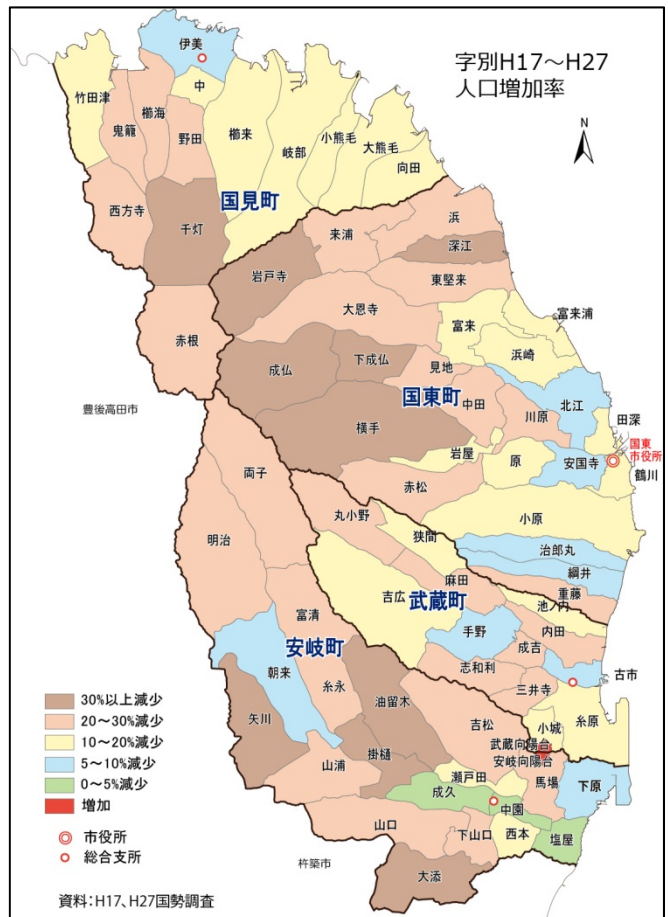
②地域による人口構造の違い

平成17年から27年にかけて人口が増加したのは、向陽台（武蔵町、安岐町）のみです。

その他の字の人口減少率は、安岐町の南部で5%未満であるほかは、多くの字で5%以上減少し、特に森林が優勢の字では20%以上減少する傾向にあります。

減少が大きい地域では、15歳未満人口率が低く、高齢化率が高い傾向にあり、特に向田（国見町）、来浦、成仏、下成仏（国東町）、明治（安岐町）では60%を越える高齢化率を示すなど、少子高齢化の深刻化が認められます。

反対に国東町、武蔵町、安岐町のそれぞれ沿岸部には、相対的に少子高齢化が緩やかな地域が見受けられます。



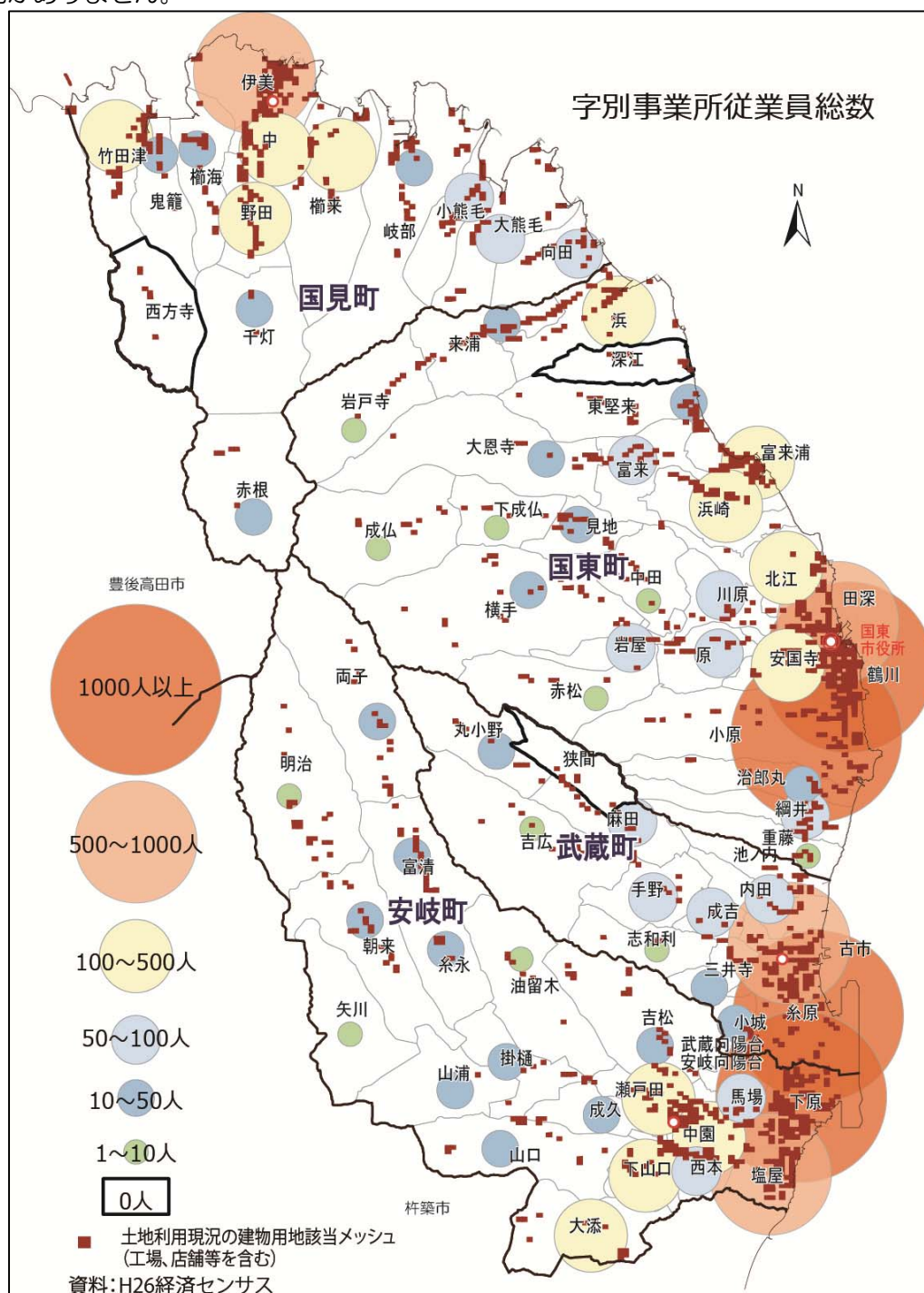
(3) 産業の地域特性

①沿岸部への事業所の集積と、田園、山林地域での少ない事業所数

総従業員数が1,000人以上集積した字は、鶴川、小原（国東町）、糸原（武蔵町）、下原（安岐町）となっています。このうち、鶴川は、国東市の中心部として古くからの商業集積や市役所等の立地によるもので、その他の字は、空港周辺及び国東市中心部の近傍に位置し、大規模工場や空港関連の立地効果が反映しています。

以上のほか、伊美、田深、古市、塩屋に500人以上、さらに人口集積が多い字には100～500人規模の従業員集積がみられます。なお、これらの大半は沿岸部に位置しています。

森林地域や田園地域、里地域では、従業員規模10人未満の字が多くなっています。特に、H26経済センサス時点で、西方寺（国見町）、深江（国東町）、狭間（武蔵町）の3字では事業所の立地がありません。



②地域による業種の特性

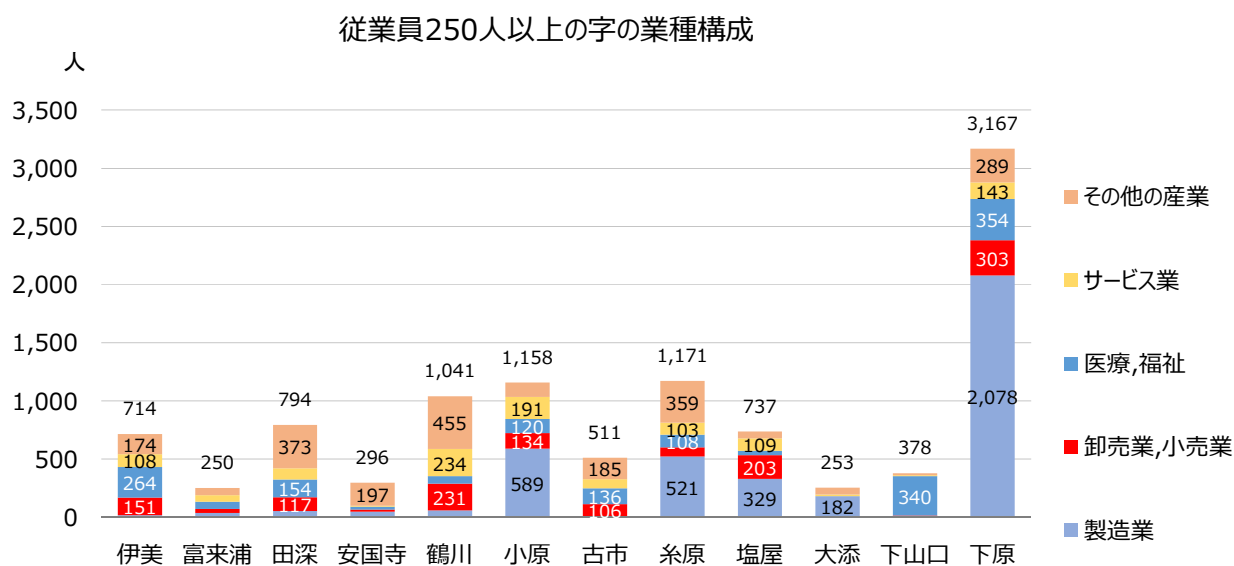
従業員数が250人以上の字について業種構成を見ると、製造業従業員数が多い字は下原のほか、小原、糸原、塩屋にそれぞれ300人以上の集積があります。

卸、小売業は、下原、鶴川、塩屋に200人以上の従業員集積があります。

病院や福祉施設が立地する下原、下山口、伊美には医療・福祉関連の従業員が200人以上従業員しています。

サービス業は、鶴川、小原に200人前後が従業員しています。

その他の産業では、鶴川、糸原、田深、下原、安国寺、古市、伊美など行政機関や教育施設、その他様々な業務施設等が立地する字に多くの従業者が分布しています。



※H26経済センサスの全従業員数が250人以上の字を対象に作成。

- ・サービス業：宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、複合サービス事業、サービス業
- ・その他の産業：農林漁業、鉱業・採石業、建設業、電気・ガス・水道業、情報通信業、運輸・郵便業、金融・保険業、不動産業、物品賃貸業、専門・技術サービス業、教育・学習支援業、公務

資料：H26 経済センサス

（４）農業の特性

①経営体の減少と高齢化の進行

平成 17 年から 27 年にかけて、各町とも農業経営体数が半減に近い減少を示しています。法人数は増加が見られますが、経営体全体から見ると各地域とも 1%に満たない値となっています。

農業就業人口は、平成 17 年から 27 年までの 10 ヶ年に総数で 4,052 人から 2,426 人へ 1,626 人が減少（減少率 40%）しました。

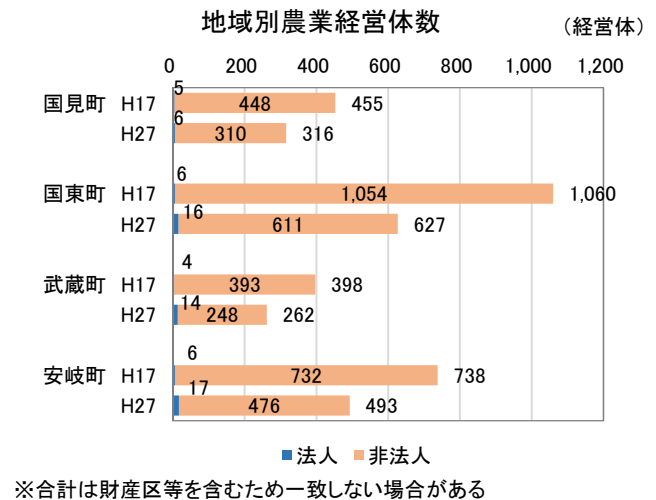
これを年齢 10 歳階層別農業就業人口の平成 17 年から 27 年までの変動を見ると、25 歳から 64 歳までの各階層では、10 年間に増加しないし横ばいの傾向で移行しています。

特に平成 17 年の 45～54 歳から平成 27 年の 55～64 歳への 10 ヶ年の変動では 1.5 倍の増加が見られます。その要因として U ターンなどの人口移動を推測することも可能と考えられます。

ただ、平成 17 年の 15～24 歳は、10 ヶ年の階層移動で 7 割近く減少していることや、平成 27 年の 15～24 歳が平成 17 年に比べ大きく減少していることから、若い農業就業者の縮小傾向が指摘できます。

また、平成 17 年の 65 歳以上階層は、10 年後の 75 歳以上の階層に移行する段階で 66%が減少しています。

以上から、農業就業人口総数の減少の背景としては、高齢化の進行が寄与するところが大きいことや若い就業者の供給が縮小していることが懸念される一方、中堅の年齢階層では堅実な就農が進んでいるということができると考えられます。



資料：農林業センサス

■10 歳階層別農業就業人口の 10 ヶ年の変動状況

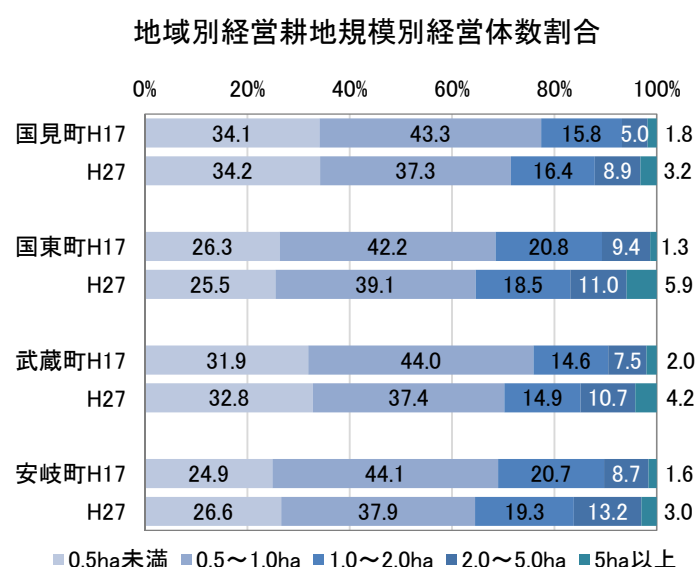
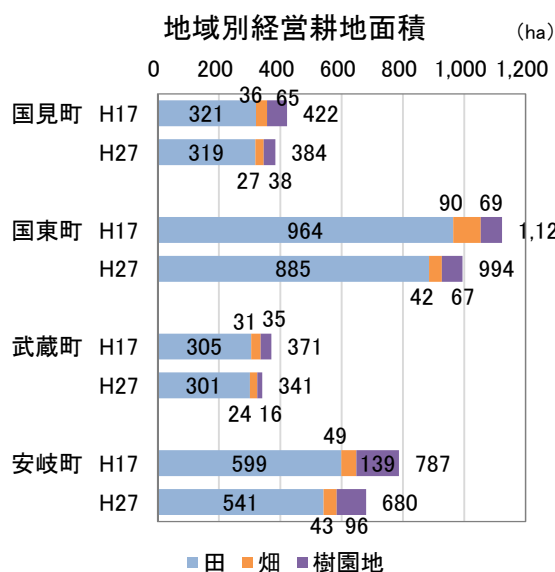
年次	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	総数
H17	84	41	75	276	753	1,752	1,071	4,052
↓							2,823	
H27	29	26	45	72	413	892	949	2,426
10年間の増減率	-	-69%	10%	-4%	50%	18%	-66%	-40%

資料：農林業センサス

②耕地面積の減少と規模拡大の兆し

経営耕地面積は減少傾向にありますますが、経営体の減少に比べるとその傾向は小さいと見ることができます。内訳をみると田が大きく減少した地域（国東町）、樹園地が大きく減少した地域（国見町、安岐町）と地域間でその傾向が異なっています。

経営耕地規模別経営体数の割合の地域別推移を見ると、各地域とも0.5～1.0ha 規模が最も多く、0.5ha 未満との合計で70%前後を占める傾向は変わりませんが、2.0～5.0ha 及び5.0ha 以上の割合が各地域とも増加しており、経営耕地規模の拡大が着実に進んでいることをうかがうことができます。



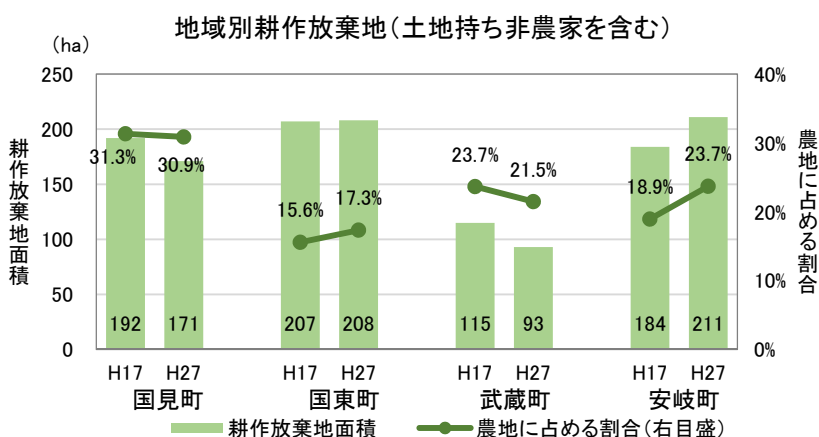
平成27年の耕作放棄地の農地に対する割合は、国見町で30.9%、国東町30.9%、武蔵町21.5%、安岐町23.7%となっており、平野部が多い地域で低く、少ない地域で高いという傾向があります。

平成17年から平成27年にかけての耕作放棄面積の推移を見ると、国見町、武蔵町では減少、安岐町では増加、国東町では面積が横ばいで農地に占める割合が拡大の傾向にあります。

耕作放棄地の状況（平成27年）

地域名	耕作放棄地 (ha)					
	計 A+B	農地に対する割合	総農家			土地持ち 非農家 B
			農家計 A=a+b	販売農家 a	自給的農家 b	
国東市	683	23.3%	364	192	172	319
国見町	171	30.9%	91	45	46	80
国東町	208	17.3%	107	59	48	101
武蔵町	93	21.5%	56	34	22	37
安岐町	211	23.7%	110	54	56	101

※農地に対する割合＝耕作放棄地÷（耕作放棄地＋経営耕地面積）



※農地に対する割合＝耕作放棄地÷（耕作放棄地＋経営耕地面積）

※耕作放棄地：以前耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした考えのない土地。

(5) 人の動きの特性

① アンケートによる生活圏

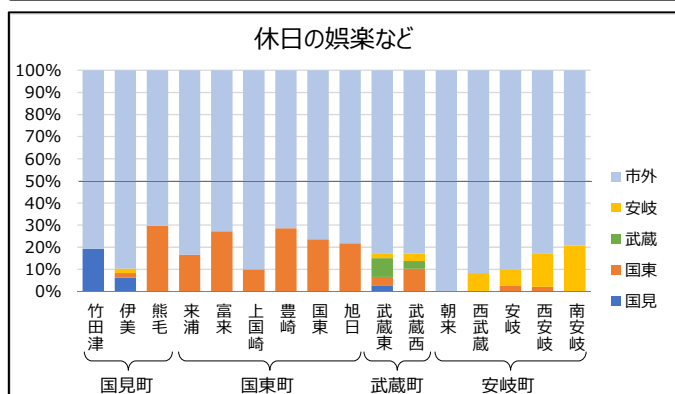
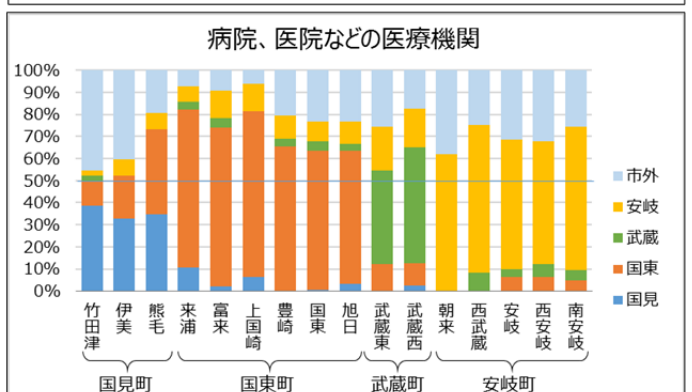
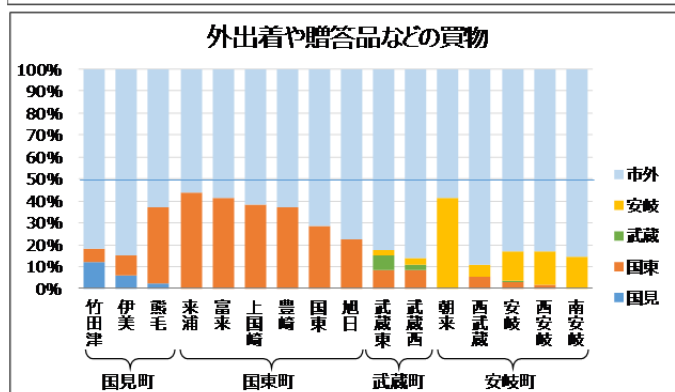
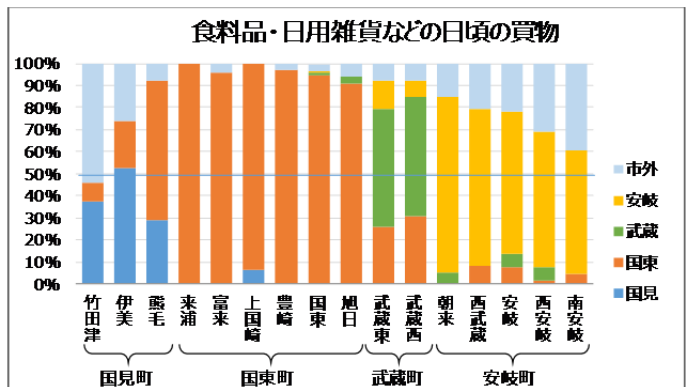
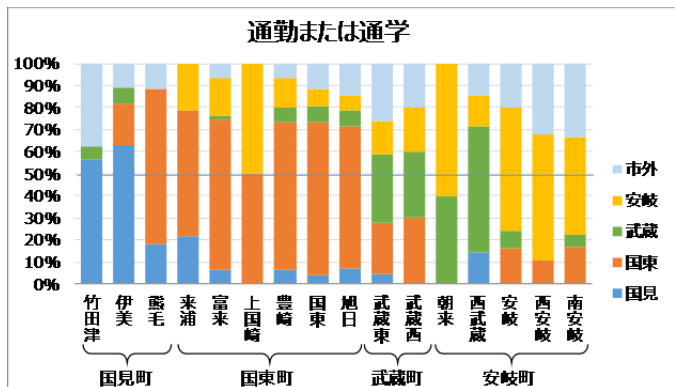
アンケートによる市民の生活圏の特性を整理します。(アンケートでは、居住地属性を地区公民館地域単位としています)

日常の買物や医療施設の利用状況では、国見町の特に西部において市外(豊後高田市方面と推定されます)の施設の利用が多くなっています。

国東町では、概ね自町内で完結していますが、外出着や贈答品の買物、休日の娯楽については、市外の利用が多くなっています。

武蔵町、安岐町では、日常的な買物や医療は自町内で済ませていますが、外出着や贈答品の買物、休日の娯楽は、圧倒的に市外(別府、大分市方面と推定されます)が多くなっています。

各地域ともに、日常の買物等は近くで済ませ、外出着や贈答品の買物・休日の娯楽については市外の利用が多いという傾向があり、本市の中心部である国東町への利用は限られたものになっています。



②地域による通勤流動の特性

市内の地域別の通勤流動を把握するために、合併前の平成 17 年国勢調査による通勤流動を整理しました。

国見町では、豊後高田市や姫島村との結びつきが目立ち、武蔵町や安岐町との通勤流動は相対的に少なくなっています。

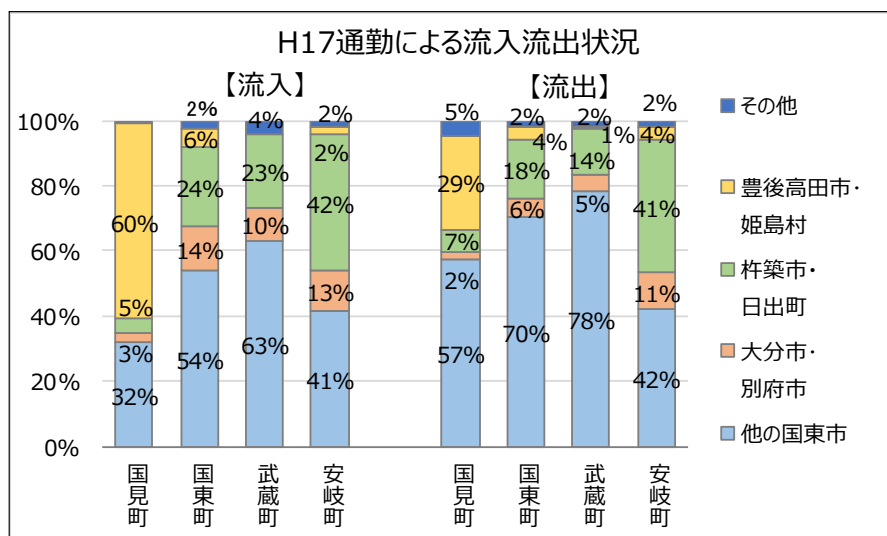
国東町では、市内のほか、大分市・別府市、杵築市・日出町間で流入超過となっています。

武蔵町は、国東町、安岐町その他、杵築市との結びつきが強くなっています。

安岐町は、工場立地等により杵築市から多数の流入が見られる他、大分市、別府市、日出町からも多くの通勤者が見られ、大幅な流入超過となっているのが特徴となっています。

■通勤者の流出流入状況

区分		平成 17 年国勢調査 通勤者の流出流入状況				平成 17 年 国勢調査	平成 27 年 国勢調査
		国見町	国東町	武蔵町	安岐町		
流入元	市内他地域	132	930	642	1,328	—	—
	大分市・別府市	11	235	104	405	755	713
	杵築市・日出町	19	415	229	1,348	2,011	1,887
	豊後高田市・姫島村	248	104	0	72	424	360
	その他	4	39	42	58	143	69
	流入合計	414	1,723	1,017	3,211	3,333	3,029
流出先	市内他地域	330	1,040	1,140	522	—	—
	大分市・別府市	14	91	73	140	318	360
	杵築市・日出町	39	267	205	511	1,022	956
	豊後高田市・姫島村	165	58	10	47	280	448
	その他	26	27	28	24	105	65
	流出合計	574	1,483	1,456	1,244	1,725	1,829
流入合計-流出合計		△ 160	240	△ 439	1,967	1,608	1,200



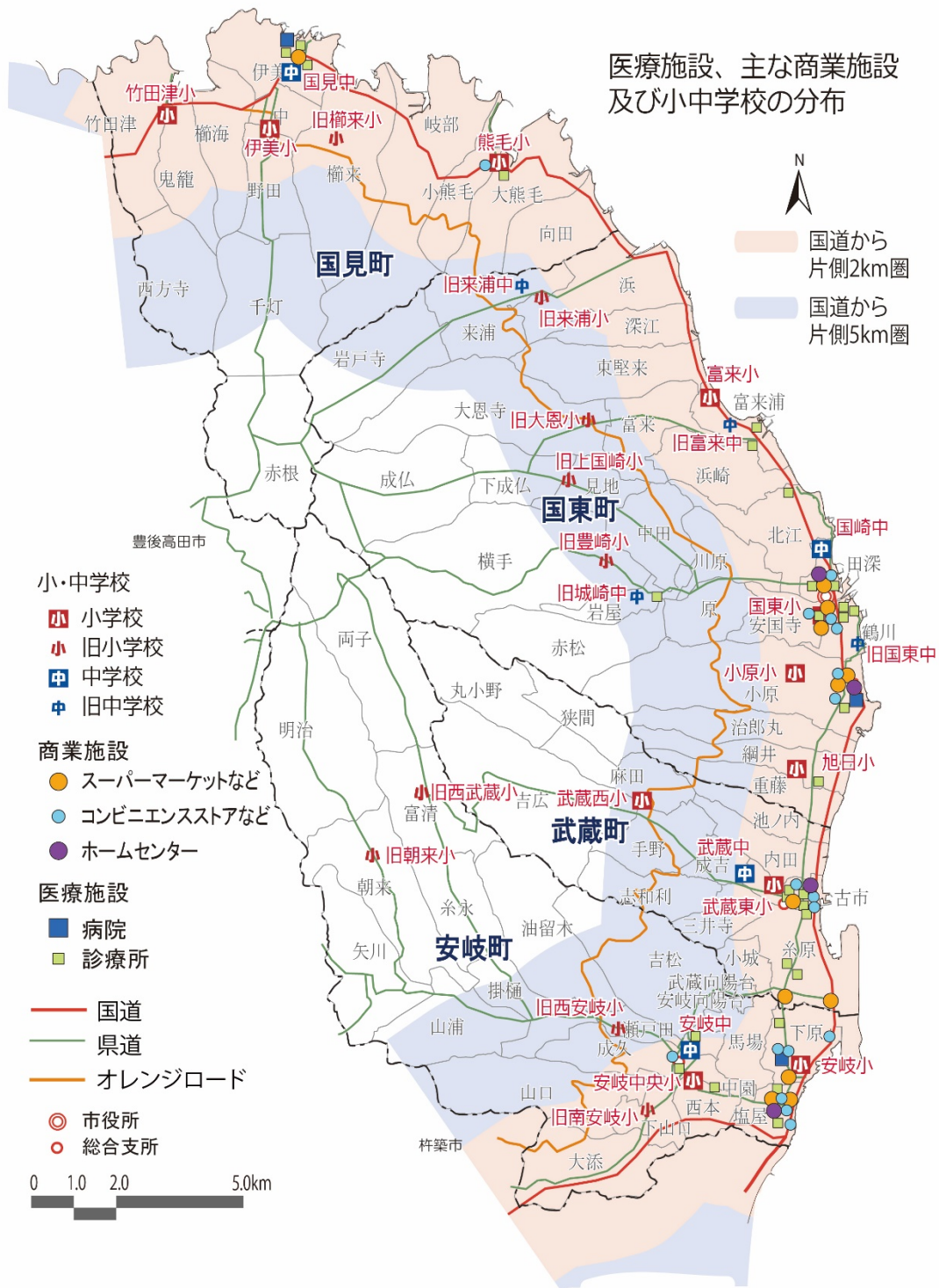
(6) 施設分布の特性

①医療施設・主たる商業施設は国道沿いに立地

病院は、伊美、小原、下原の3箇所に立地し、また診療所は人口集積が多い鶴川や古市、塩屋等に多く立地しています。これらはいずれも国道の近傍に位置しています。

スーパーマーケットやコンビニエンスストアについても、人口の集積地や国道沿いにまとまって立地する傾向があります。

国道からの距離圏で見ると、旧小・中学校以外の施設は概ね国道から2km圏内に位置しており、海岸線に近い地域と内陸部の地域間での生活利便性は大きく異なる状況にあります。



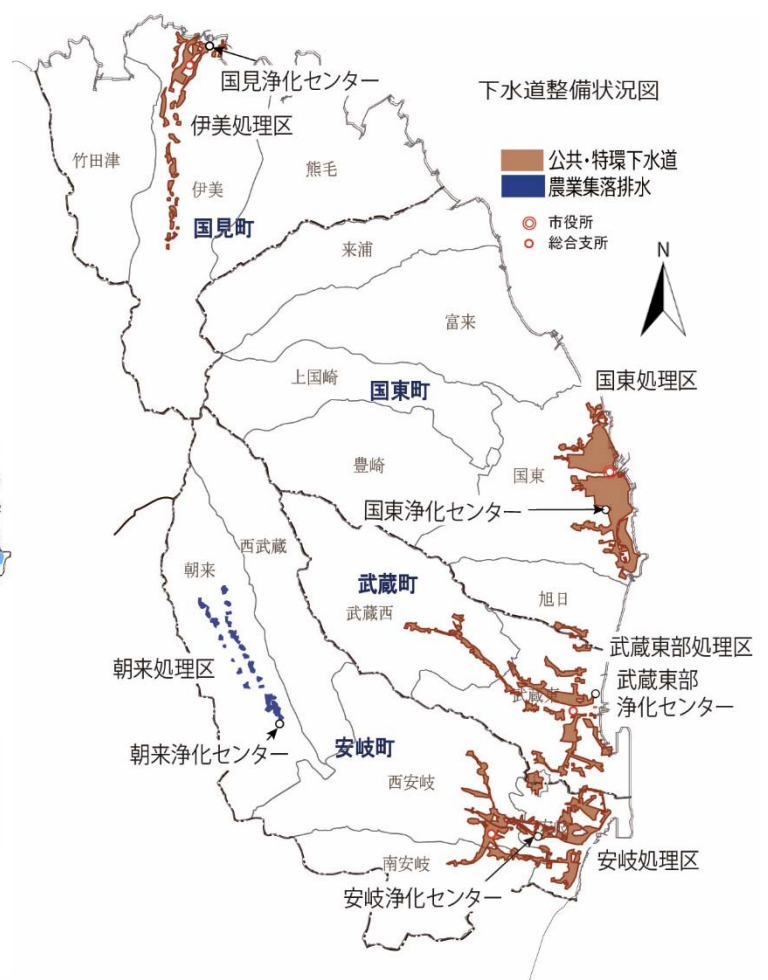
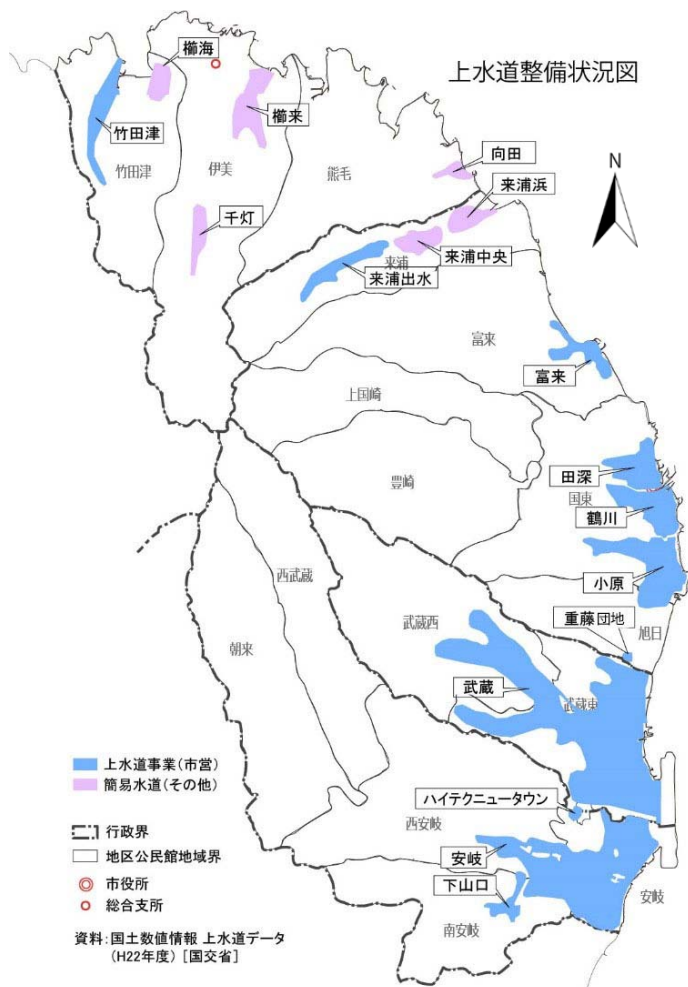
②給・排水施設整備

上水道事業を実施している地区は、竹田津、鶴川、富来、小原、田深、重藤団地、来浦出水、武蔵、安岐、下山口、ハイテクニュータウンの11地区で、平成27年度末現在の給水率は、人口ベースで49.17%となっています。

下水道は、公共下水道が、伊美地区、国東地区（田深、鶴川、小原等）、武蔵東部地区、及び安岐地区で整備され、また農業集落排水事業が朝来地区で整備されています。なお、第2次総合計画によれば、今後は合併処理浄化槽による排水処理を推進することとされています。

■下水道整備状況

種別	地区名	排水区域(ha)		備考
		全体計画区域	事業計画区域	
公共下水道及び特定環境保全公共下水道	伊美	96	96	
	国東	303	303	
	武蔵東部	262	259	
	安岐	250	250	
	計	911	908	
農業集落排水事業	朝来地区	27.8	27.8	



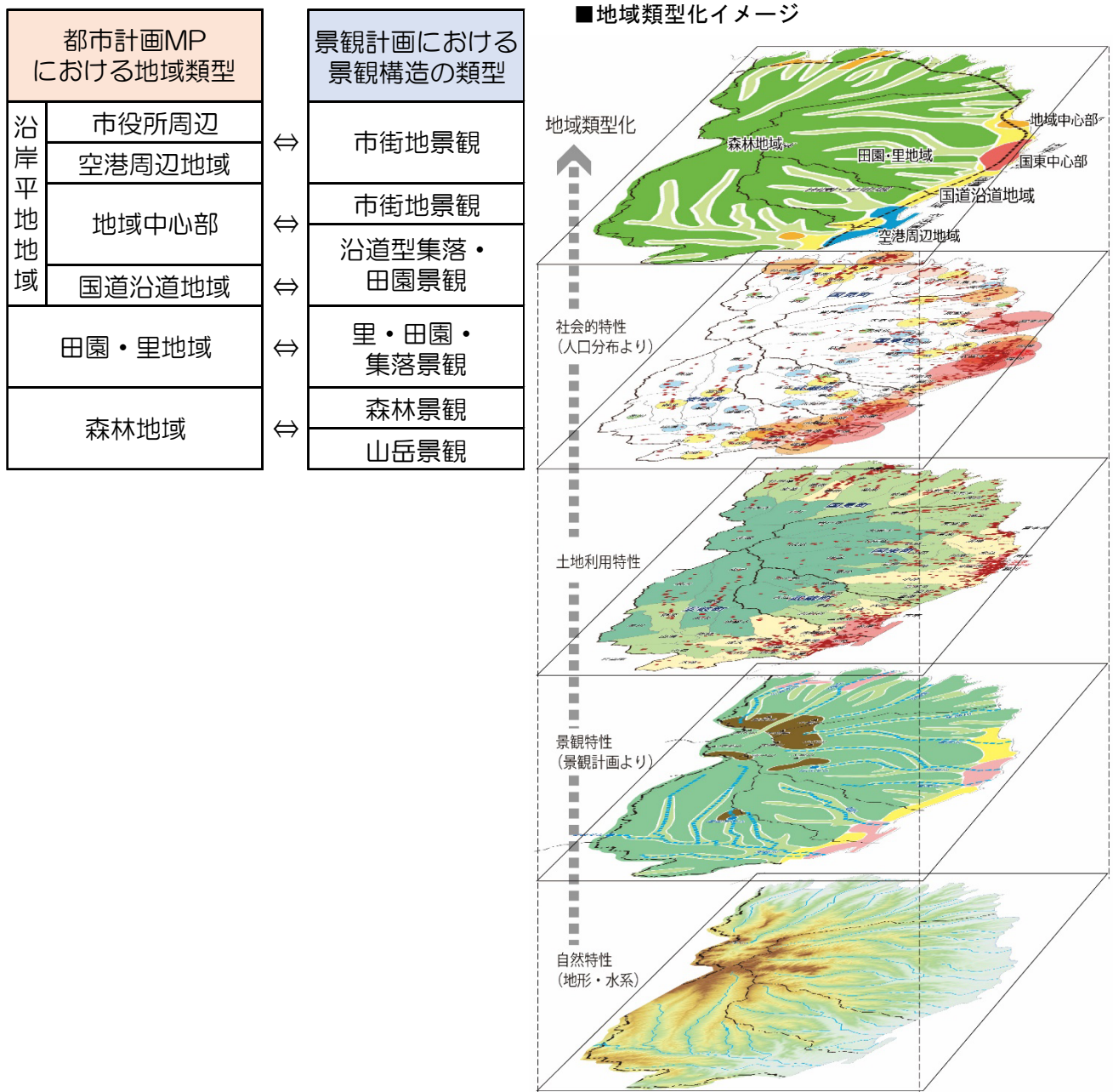
(7) 地域特性のまとめ

①地域の種類区分

地域の類型は、地形条件、土地利用、交通、人口、産業等の地域特性の整理を踏まえ、「沿岸平地地域」、「田園・里地域」、「森林地域」に区分した上で、沿岸平地地域についてはさらに「市役所周辺」、「空港周辺地域」、「地域中心部」、「国道沿道地域」に区分を行って特性を整理します。

※この類型化は、本節での大まかな区分であり名称についても仮称とする。

※景観計画における「土地利用からの景観構造」の区分とは概ね以下のように対応する。



②類型ごとの特性と問題点

区分		地形・土地利用特性	人口・産業等特性	問題点
沿岸 平地 地域	国東 中心部	鶴川、田深、安国寺、小原等の地区で、まとまった平地部に従来より国東半島の中心部として商業・業務、行政、住宅等の機能が集積。	- 人口は減少しているが、減少率は小さい。 - 高齢化率は30%を超えるが、市の平均的な水準にある。 - 商業・業務のほか大規模工場の立地により、産業の集積地となっている。	- 市の中心としての賑わいが期待されるが、現状は十分ではない。 - 行政、文化等多くの都市機能が立地しているが、面的な連携が遅れている。
	空港 周辺 地域	武蔵町東部と安岐町東部に広がる平地部に位置し、旧町役場や店舗などが立地する各町の中心部であったが、空港、大規模工場、新しい住宅地など大きく変貌している。	- 向陽台で増加が見られるなど人口減少率は低く、高齢化率も相対的に低い。 - 大規模工場をはじめ、店舗や業務施設等の立地が進み市内で最も産業集積が大きい。	- 都市化が進行しているが、農業との調和、機能相互のつながり、快適な都市空間などが不足している。 - 農業との調和など土地利用相互の調整が遅れている。
	地域 中心 部	伊美、竹田津、富来浦など、主に市の中北部に位置する市街地で、港の周辺に形成されたものが多い。	- 人口は減少しているが、10%未満の地域が多い。 - 高齢化率は50%を超える地域と30%台の地域とが混在している。 - 田園・里地域や森林地域を後背地域に控え、これら地域の生活サービス拠点として機能している。	後背の田園・里地域や森林地域の日常生活を支える役割が期待されるが、空き店舗化や公共交通利便性の不足から、十分に役割が果たせていない。
	国道 沿道 地域	国道に沿って連担する小規模な市街地や集落地で、田園と一体となった地域が多い。	- 国東地域以南では人口減少率は10%未満で相対的に小さく、高齢化率も30%台にとどまっている。 - 国東地域以南では、沿道型サービス施設の立地が多い。	- 国東地域以南では、国東中心部や空港周辺地域からの都市的土地利用の拡大により、農業や海岸沿いの松林の浸食等が一部で見られる。 - 沿道型サービス施設の立地が点する傾向がある。

区分	地形・土地利用特性	人口・産業等特性	問題点
田園・里地域	・標高概ね 50m 未満の河川の両側に形成された平地部で、農業主体の土地利用が行われ、平地部と尾根筋との境界部に集落が帯状に形成されるパターンが多い。	・人口減少率が 20% を超え、高齢化率も 50% 前後の地域が多い。 ・店舗等の立地は全体に少なく、国道沿道地域に依存している傾向がある。	・国東中心部や空港周辺地域を取り巻く地域では、一部で住宅地開発等による景観の混乱や農業生産への影響が生じている。 ・集落地での生活を保全していくための道路、供給処理などの整備が遅れている。 ・沿岸平地地域から森林地域に至る谷筋に沿って形成された生活圏は、人口の減少などから様々な生活機能が失われていく傾向にある。
森林地域	・大半が森林で、両子山等を中心に場合によっては沿岸部近くまでヒトデ状に伸びる尾根筋に位置する。大半が森林であるが、本市の歴史的資源の多くが分布する地域である。	・人口減少率が大きく、かつ高齢化率も 60% を超える地域があるなど深刻化している。 ・生活サービス業を含め、事業所の立地が少ない。	・人口減少、高齢化の深刻化と合わせて、様々な生活サービス機能の減少傾向がこれを助長している。